

新型コロナに日本循環器 連合はどう立ち向かうのか

企画：石津智子

(筑波大学医学医療系 臨床検査医学)

今回の特集は、日本循環器連合の2020年4月から7月中旬の約3カ月のコロナ禍の軌跡である。

2020年4月1日、日本循環器学会を含む8学会(日本小児循環器学会、日本心エコー学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本心臓病学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本心不全学会、日本不整脈心電学会)が日本循環器連合として発足した。4月10日、連合メンバーが集結、日本循環器学会 COVID-19 対策特命チームが結成された。コロナ禍は、連合の真価を問う試金石となった。本誌を読むと驚くべきスピードで勇気と決断力をもって、連合から多数の提言が発表されていることがご理解いただけると思う。

終わりの見えない状況で、現場の私たちの with コロナの行動判断の拠り所は、何より自らが所属する学会の提言・情報であった。4月の初め、学会提言によって、立ち止まり、対策を練ることができた。その後、現場に即した日本語のマニュアルや動画などによって、感染防護を学ぶことができた。そして今、救える命を救うための New Normal な体制づくりの途中にあることも示された。そのための地域の情報・資材・連携のための仕組みづくり、政策への提言など、今後も学会への期待は大きい。

本特集は出版される9月であっても、コロナ対策の基本的な学会情報を紙面で包括的に把握でき、新しい発見がたくさんあると思う。最新情報は紹介されたホームページで確認していただきたい。

この特集をまとめるにあたり、COVID-19 対策特命チームに関連する皆様の活動に、「心臓」診療に関わる多くの医療者は、心からの敬意と感謝の気持ちであることをお伝えしたい。



HEART's Selection